

# 地域における海岸美化への取り組みについて

「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」等の受賞者を紹介します。

本表彰事業は、沿岸域の住民、船舶の利用客等、海が大好きな皆様による、海をきれいにするための奉仕活動を顕彰し、国民の皆様により一層海への親しみを深めていただくとともに、海

の利用・開発、海洋環境保全への理解と協力を得て海洋・海事思想のより一層の普及を図ることを目的として、毎年、国土交通大臣及び各地方整備局長等が行っているものです。

以下、令和2年度の国土交通大臣表彰受賞者（地方整備局関係）及び地方整備局長表彰受賞者を紹介するとともに、その取り組み内容を一部紹介させていただきます。

令和2年 海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰受賞者一覧

| 国土交通大臣表彰                   |       | 各地方整備局長表彰                  |       |
|----------------------------|-------|----------------------------|-------|
| 受賞者名                       | ブロック名 | 受賞者名                       | ブロック名 |
| 青森市相馬町町会                   | 東北    | 深浦町立 岩崎中学校<br>深浦町立 いわさき小学校 | 東北    |
| 江ノ島湾護美さぁくる                 | 関東    | 八戸東ロータリークラブ                | 東北    |
| 鎌倉マリンスポーツ連盟                | 関東    | 八戸地区柔道整復師会                 | 東北    |
| イオンモール株式会社イオンモール富津         | 関東    | 潟上市立 出戸小学校                 | 東北    |
| 一般社団法人日本サーフィン連盟福井支部        | 北陸    | にかほ市立 象潟小学校                | 東北    |
| 奥田北校下自治振興会                 | 北陸    | 酒田小型船舶安全協会                 | 東北    |
| 田原市サーフィン協会                 | 中部    | 千葉港ポートパークかもめのクリーン隊         | 関東    |
| 西尾信用金庫                     | 中部    | 新潟県村上市塩谷区                  | 北陸    |
| 津市立白塚小学校                   | 中部    | 運河のまちを愛する会                 | 北陸    |
| 江井島の海と子どもを守る会              | 近畿    | 敦賀市漁業協同組合                  | 北陸    |
| 岡山県立笠岡工業高等学校 VYS 部         | 中国    | 特定非営利活動法人富士山クラブ            | 中部    |
| 長崎市立野母崎小学校及び<br>長崎市立野母崎中学校 | 九州    | 一般社団法人愛知県トラック協会海上コンテナ部会    | 中部    |
| 特定非営利活動法人玄海ライフセービングクラブ     | 九州    | 霞ヶ浦地区環境行動推進協議会             | 中部    |
| 佐賀県立伊万里高等学校                | 九州    | 特定非営利活動法人神戸海さくら            | 近畿    |
|                            |       | 大阪海さくら                     | 近畿    |
|                            |       | みなべ町商工会青年部                 | 近畿    |
|                            |       | 岡山海さくら                     | 中国    |
|                            |       | 阿南市立椿泊小学校                  | 四国    |
|                            |       | 株式会社フジ                     | 四国    |
|                            |       | 東山 福                       | 四国    |
|                            |       | 私たちの未来環境プロジェクト             | 九州    |

## 「きれいなむつ湾を取り戻そう」町内会での海岸清掃活動

青森市相馬町は明治25年、相馬駿氏によって開町され、漁業、水産加工業のまちとして幾多の困難を乗り越え、明治、大正、昭和、平成、令和の永い歴史を刻んでおります。

所在地は、青森市内のむつ湾沿い、東は合浦公園、西は堤川河口に面した地域にあり、448世帯、1,120名で構成され、海や川に囲まれた地域として、地域の方々からは「新鮮な魚介類」を供給する「青森漁港」のあるところとして知られております。

町会の事業としては、相馬町地域市民館建設、クリーンボックス設置、観音堂大改築、延命地藏堂新築等諸事業を実施してきました。また、町会活動として防災訓

練を年2回実施しており、豪雪地域である青森市にとってかせない除排雪対策についても、町会と県、市、民間事業者の協力により実施しております。その他に高齢者の見守り等の高齢者支援活動、ごみの減量化のための資源ごみの回収等のゴミ対策活動も行っております。

むつ湾は津軽海峡の南側、青森市の北方にある大湾です。堤川は八甲田山系から青森市までを流域とし、むつ湾に注ぐ最大の2級河川であります。そのむつ湾と堤川に囲まれた相馬町は景観の良い地域として住民から親しまれて来ました。しかし、近年むつ湾は海岸への漂着ゴミや粗大ゴミの不法投棄、ポイ捨てされるゴミや廃棄された釣り具等に悩まされ、住

民の手に負えない物となってきました。このため、町会としては環境保全のために地域の企業等の協力者と共同で環境保全活動に取り組むこととし、昭和62年から「きれいなむつ湾を取り戻そう」ために町内での海岸の清掃活動を実施しております。春は5～6月、秋は9月の年2回、子どもや高齢者を含め1回50名～100名程度の町会員や協力企業等が参加し、ごみの収集と処分場への運搬用として、町会から軽トラック、協力企業からもトラックがそれぞれ2台ずつ提供、活用されております。その活動は不法投棄やポイ捨ての防止と漂着ゴミの回収により海岸の汚染を防ぎ、むつ湾の環境保全に貢献するものと確信しております。また、子ども達の



参加は環境意識と環境教育の向上に繋がるものとなります。

私たちは引き続き町会活動をとおり、地域の発展と環境の向上に尽力していきます。

## 鎌倉マリンスポーツ連盟の活動について

1980年、鎌倉マリンスポーツ連盟は、鎌倉の海の安全と秩序を守り、掛け替えのない海の景観や資源を守りつつ、マリンスポーツを通じて老若男女に海のすばらしさ、大切さ等を伝えとともに、歴史ある鎌倉に調和、協調を意とした普及・発展をはかることを大前提として、各マリンスポーツ関連の業者（材木座から坂の下）または、愛好者を集めて設立された団体です。

鎌倉漁業協同組合、湘南海上保安署、鎌倉市役所、鎌倉警察署、鎌倉消防署、かながわ海岸美化財団、県土木事務所などと協力関係をもち、海の安全普及活動体

制を整え、以後40年、1年間を通して、マリンスポーツの普及発展活動や海上レスキュー活動、ビーチクリーン活動などを行なっています。

現在28のマリンスポーツ業者が加盟しています。

昨年まで開催していた鎌倉マリンスポーツフェアは、鎌倉でできるマリンスポーツ（ウインドサーフィン、サーフィン、ヨット、アウトリガーカヌー、サーフスキー）のスクールを由比ヶ浜に集めて無料体験できるイベントで、神奈川県内から多くの家族連れや子供たちが集まりました。

マリンスポーツ体験イベントとしては、おそらくこの近辺では最大規模と思われます。また、参加者全員でビーチクリーンも行い、改めてプラごみの多さを実感しています。

その他では、津波警報、注意報が出た場合にオレンジフラッグを海岸に掲げ海上にいるマリンスポーツ愛好者に伝える活動もしています。

今後も鎌倉マリンスポーツ連盟は鎌倉の海の安全と美化、秩序を守り続けて行きます。

会長兼理事長 松田 穂





## 「富山の宝」 富岩運河の歴史とともに

運河のまちを愛する会は、かつて富山市の水運の拠点であった「富岩運河」を軸とした富山市北部地域のまちづくりを目的として平成16年に設立され、運河周辺住民や県民、企業等の賛同会員で組織されています。

富岩運河は、富山市と市内を流れる神通川の歴史と密接な関係があります。明治時代、当時の神通川は、富山城址の北側を蛇行して流れていて市内は度々水害に見舞われていたため、分水路を設ける工事が行われました（馳越線工事）。分水路が本流化した結果、旧流路は廃川地化し市を分断する形となってしまう、長い間、富山市市街地化の大きな課題でありました。この課題を解決するべく、昭和3

年から運河を開削しその掘削土を利用して廃川地を埋め立てる工事が行われ、昭和10年に、富山市駅北と当時の東岩瀬港（現在の伏木富山港富山地区）を結ぶ水路として富岩運河が誕生しました。

沿岸工業地帯の舟運等に活躍した富岩運河でしたが、高度経済成長期を迎え輸送手段の変化や環境問題などで運河本来の利用がされなくなり、埋立ての計画が持ち上がったこともありましたが、しかし、まちなかの貴重な水面として再生する方針が打ち出され、富岩運河は市内の水辺空間として生まれ変わることになり、今では都心のオアシスとして多くの市民県民に親しまれています。

本会が富岩運河環水公園を中心に行っ

ているのは『運河のまちクリーン大作戦』と称した清掃活動です。年4回、地元住民や小中学校児童生徒ら毎回170名以上が参加し、草取りやごみ拾いに汗を流しています。参加した中学生は、「夕暮れ時やライトアップされた天門橋、水辺がとてもきれいなので多くの人に来てもらいたい。地域のための活動としてこれからも続けていきたい。」と語ってくれました。

運河に関心と愛着を持った多くの人々が参加し、清掃活動も今年で16年目を迎えます。運河周辺の地域は、まさに富岩運河の歴史とともに歩み発展してきました。これからもこの活動を継続し、運河の美しいまちを後世に繋げていきたいと思っています。



## 地域の歴史・産業を学び、力強く生きることや郷土を愛する児童を育てる取り組み

本校は、伊勢湾に面した津市白塚漁港の繁栄とともに、発展してきた漁師町に位置する小学校である。地域で大切にされている伝統行事や農水産業などの体験活動を多く取り入れ、地域力で子どもたちを育てている。

300年の伝統を誇る地域まつり「やぶねり」は、自然災害や疫病に悩まされ、日々の生活が、漁獲高に左右される地域ならではの、強く生きるための疫病防除祈願祭りである。少々荒っぽいけんか祭りであるが、6年生は、体験学習として、地域の男たちが、体をはって困難に立ち向かう生きざまを学んでいる。

また、5年生は、米作り体験を行っている。

白塚地区運営協議会、JA、八雲神社総代、自治会長等、総勢26名の地域の方が中心となり「田植え」「稲刈り」「餅つき」の農業体験を行っていただいている。

4年生は、「ラン伴」の取り組みを行っている。白塚地区社会福祉協議会主催の「ラン伴」は、認知症の人と一緒にたすきをつなぐリレー体験を通して、だれもが暮らしやすい地域づくりを推進する活動である。オレンジのたすきをもって全国を順番にリレーしてきます。子どもたちは、分担された地域を走りバトンをつなげます。これには、キッズサポーター養成講座も開催され、地域をあげて高齢者を支える取り組みや困っている高齢者がいたら、声をかけていくことを学んでいる。

3年生の、白塚漁港の見学や、2年生の白塚市民センターの見学も含めて、地域の農水産や共助の取り組みを学んでいる。

今回の表彰は、この地域学習の一環として平成11年から取り組んできた白塚海岸の清掃活動を顕彰されたものです。本校の環境委員会の児童が中心となって、全校約300名が20グループほどの縦割り班で活動します。高学年の子たちが、ごみを分別できるように「カン」「プラ」「燃えるゴミ」「その他」と分担し、それぞれごみ袋を持って、グループごとにごみを集めます。この活動は、地域の自治会や民生委員、放課後児童クラブなども参加していただけるようになり、地域あげでの取り組みと発展してきました。

白塚海岸は、海流が近くまできていて危険なため、海水浴場にはなっていないので、子どもたちも、遊びに行くことはありませんが、浜清掃の取り組みもあって、ウミガメが産卵にくる浜となり、保存会も誕生しています。地域の海岸を環境の視点で保護していく活動としても、今後発展させていきたいです。



## 『国際環境認証「ブルーフラッグ」取得に向けた須磨海岸マナーアップへの取組み』

須磨海岸は古くから白砂青松で知られる風光明媚な海岸であり、日本でも珍しい都市部にある自然海岸として、地域の憩いの場として長く親しまれてきた海岸であるとともに、漁港もあり、地場産業として海苔の養殖も行われています。また、海水浴場開催期間中においては関西最大級の規模を誇る「須磨海水浴場」として有名で、市外からも多くの来場者が訪れるといった、市民にとって大切な生活の場であり、資産でもあります。

しかしながら、近年は海岸へのゴミの不法投棄や海岸利用者のマナー低下が問題となっており、海岸および周辺地域の衛生環境の悪化だけでなく、生態系への被害など海洋環境保護への取組みが課題となっています。今、海に大量に流入

するプラスチックが、世界的な問題となっており、多くのプラスチック製品を生産、消費している日本も無関係ではなく、国際的にも大きな責任を持つ国の一つとして、この「海洋プラスチック問題」の解決に向けて早急に対応していく必要があると考えます。

私たちは、都市部における自然環境の保全という重要かつ困難な課題に挑戦し、全国でも屈指の来場者数を誇る須磨海岸での海洋環境保全の仕組みをボランティアが中心となり構築したいと考え、2013年9月に団体を設立しました。

“楽しくなければ続かない”を基本理念に、参加したみなさんが海の良さや自然の良さを体感できる雰囲気作りに取り組んでおり、毎月1回開催するビーチ

クリーン活動は、これまでに計148回、延べ2,380人の参加者数となりました。(2020年3月末時点)

また、2017年より、神戸市港湾局と連携し、海水浴場開催期間中は毎日、海岸にゴミステーションを設置し、私たちボランティアが海水浴場来場者自らにゴミの分別収集を呼びかける参加型プロジェクト「スマイルビーチプロジェクト」に取り組み、日本で4番目となる国際環境認証“ブルーフラッグ”の取得に貢献しました。

今後も産官学民の連携により、都市型海洋環境保全に取り組むロールモデルとして、全国および世界に発信できればと考えております。



横断幕と参加者



スマイルビーチプロジェクト



環境セミナー

## 地元笠岡のカブトガニ繁殖地を守るために

岡山県立笠岡工業高等学校は、「誠実」の校訓の下、生徒一人ひとりを大切に、個性を伸ばし、思いやりの心や工業人としての知識・技術を身に付けさせ、希望に満ちた明るい学校を目指している、70余年の伝統を誇る県西南部唯一の工業高校です。

本校のある笠岡市は、令和元年に「知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島～海を越え、日本の礎を築いたせとうち備讃諸島～」として日本遺産に認定された島々を有する、人口約4.7万人の自然豊かな街です。

1971年(昭和46年)6月に国指定天然記念物として指定された「カブトガニ繁殖地」を有し、そこでは毎年「リフレッシュ瀬戸内(笠岡市海岸クリーン作戦)」という海岸清掃活動を実施しており、カブトガニ繁殖地と美しい海岸を守る保護啓発活動を行なっています。本校VYS部は現在その活動に参加していますが、かつては独自で海岸清掃を実施し長きにわたり海岸清掃に取り組んできました。そうした継続した活動を認めていた

き、今回受賞の運びとなりました。近年では学年団での海岸清掃や地域清掃も行っており、学校全体で笠岡の海岸や地域の環境保全に取り組んでいます。

また、リフレッシュ瀬戸内(笠岡市海岸クリーン作戦)は、笠岡市や民間企業、小中高校の団体等毎回約35団体、個人参加を含めると1,000名近い市民有志が集い、海岸でのゴミ拾いや天然記念物を保護啓発する活動に汗を流しています。

今回の受賞は本校にとって大変光栄なことでありまして、また海岸清掃は笠岡市民の多くも参加していますので、笠岡市全体で受賞したものといえると思います。

今後とも生徒と地域で協力しながら、海岸清掃を継続し海岸を守っていく一助となれますよう頑張りたいと思います。

VYS部顧問 山本 茂樹  
参考:笠岡市ホームページ

カブトガニ繁殖地の清掃活動に参加して

いる私たちVYS部員の多くが笠岡で育ち、地元の天然記念物であるカブトガニ繁殖地をきれいな状態で保ち、カブトガニだけでなく他の海洋生物も暮らしやすい環境を維持していくことができるように、これからも清掃奉仕活動を継続していきたいと考えています。

そのためには、海ゴミをなくすことや回収した海ゴミの大半を占めているプラスチックゴミによる生き物への危険性、海ゴミが原因で起こる問題などについて、もっと知識を深め、ポイ捨てや不法投棄などが減る活動などへも取り組んでいくことが大切だと感じました。また、VYS部員だけでなく多くの人にも海ゴミについての知識を持ってもらうことや、VYS部の活動として、笠岡の海環境を守るために清掃奉仕活動の回数を増やしていくことが出来たら良いと思いました。

また、回収したゴミの分別時に多く見られたゴミは、お菓子の袋やペットボトルなどの日常生活の中で子供から大人まで多くの人々が利用する物でした。海ゴミのためどこから流れ着いたものかはわかりませんが、まずは私たちが正しいゴミの捨て方やリサイクルを実践し、ポイ捨てを減らすことで少しずつ海ゴミが無くなり、クリーンな海環境につながっていくのではないかと考えます。

これからも活動を継続し、海の生き物と私たちが共に暮らしていきやすい環境を守り続けていきたいです。

VYS部部长 渡邊 美和子





## 美しい椿泊湾を守り続ける児童

徳島県阿南市椿泊町にある椿泊小学校は、阿波水軍の拠点地であった「松鶴城跡」に建てられています。阿波水軍は、豊臣秀吉の九州征伐、小田原の北条攻め、朝鮮征伐の時などに活躍し、阿波の殿様の蜂須賀氏が参勤交代を行う際には船を出す役目を果たした水軍であり、その拠点地であった場所に建つ学校の目の前には海が広がっています。子どもたちも先生もみんな毎日、キラキラ輝く椿泊湾の景色を見ながら勉強をしています。

本校は、心身ともに健康で、自他の人権を尊重し、よりよき生き方を目指す児童を育成することを学校目標としています。

その一環として、毎年学校の目の前に広がる海の清掃活動を行っています。この

活動は20年以上前から継続しています。

昨年は、大雨の影響で大量のゴミが流れ着き、海に浮かんでいる浮遊ゴミをまるで地引き網漁のように、全校児童6人力を合わせて引き上げました。

今年は全校児童8人(4年生2人、1年生6人)で海に浮かんでいるゴミや打ち上げられたゴミを、網を使ってゴミ袋に詰める作業を行いました。ゴミの中にはプラスチックなどの自然環境を壊すゴミも多く、子どもたちは将来ゴミを捨てない大人になると心に誓ったのではないのでしょうか。

今年は昨年経験した4年生の2人が中心となり、1年生と力を合わせて取り組みました。

近年、大雨や台風により海にゴミが大量に流れてきています。子どもたちは、学校

前の一部の場所ではありますが、ふるさとの宝物であるこの美しい椿泊湾の海を守り続けたいとの思いで今後も頑張って取り組んで参ります。

小学校としても、この清掃活動を続けていくことで、地域の方に理解されることはもちろんのこと、自分たちが、まずゴミを捨てない精神をはぐくみ、地域社会に誇れる生き方を学んで普段の生活に活かして欲しいと願っています。また、心豊かで、思いやりのある子、力を合わせてよく働く子になってくれることを信じて止みません。

この経験をした児童たちが自然環境への問題意識を持ち、この活動を後輩たちへと引き継いでいってほしいと願っています。



## カブトガニ産卵地を守るために

佐賀県立伊万里高校は、佐賀県北部に位置し、大正5年に創設され生徒数は約560名です。

多々良海岸及び多々良南海岸は、波が静かで、粗めの砂が堆積するなど国天然記念物のカブトガニの産卵に適しており、日本最大級の産卵・繁殖地として知られています。

7月から8月の大潮のころ、満ち潮によってカブトガニのつがい産卵にやってきて、砂の中に産卵する様子が観察できます。

当校は、昭和37年から生物部(現在は

理化・生物部)が行政・地域と協働し、カブトガニの調査研究や幼生の飼育、保護活動を行っており、また、平成9年6月から現在まで24年間継続し年1回、カブトガニの産卵を保護するため、高校で有志を募り、毎回約100名で多々良海岸及び多々良南海岸周辺に流れ着いたゴミを拾い集めるなどの清掃奉仕活動を行っています。この活動に多くの生徒が参加を希望し、地域に愛着を持ち、身近な自然について考える良い機会となっています。

今後もこの活動を継続し、カブトガニの保護、環境美化保全、利用者の環境意識

向上に貢献し、未来に引き継いでいきたいと思っています。

この度は本校の活動を表彰いただきありがとうございます。

